

インフルエンザワクチンは有効か

今季大流行のインフルエンザ

センター長 山崎武美

本年 1 月中頃から猛威を振るっているインフルエンザは、09 年の新型インフルエンザ流行に匹敵する患者数である。1 月後半から 2 月はじめの土曜、日曜には 2,000 名近い患者がセンターに殺到している。今季の流行にインフルエンザワクチンが効を奏しているか否かについて検討する目的で、来院患者のワクチン歴を聴取し分析した。

【結果】

1. 受診患者総数は 1,978 人（図表 1）。その内、発熱、咳などからインフルエンザを疑い迅速検査を実施したのは 1,465 人であった（図表 2）。
2. 検査結果は A 型陽性者が最も多く 862 人。B 型陽性者は 113 人であった（図表 2）。
3. 全受診者に対するワクチン接種済者の割合は、1～3 歳と 4～6 歳の群に多く、年齢が高くなるにつれ漸減。全体では 0.40 であった（図表 3）。
4. A 型陽性者について、年齢別の患者数は、4～6 歳がピークで年齢が高くなるにつれ減少している。また、どの年齢群においてもワクチン未接種者の患者数が接種済者より多い（図表 4）。

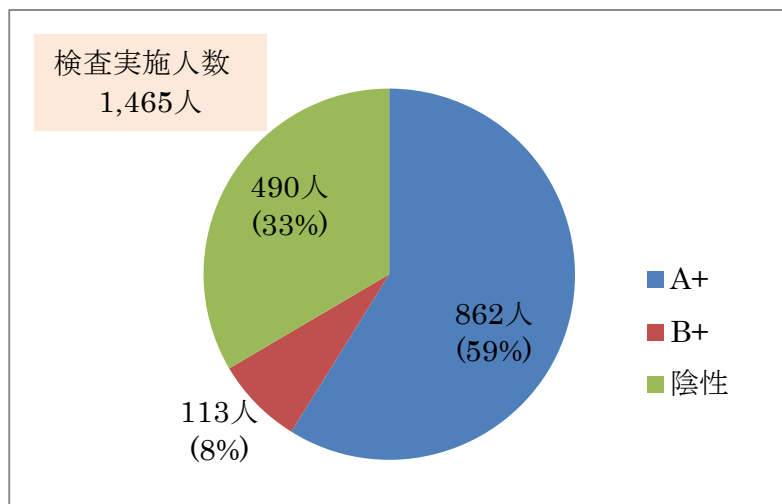
【考察及びまとめ】

- 今季の流行は、主に A 型インフルエンザであり、ワクチン接種者も罹患しているが、どの年齢においても未接種者の患者数の方が多く、ワクチン効果はあると考えられた。
- ワクチンの接種率は乳幼児（1 歳～6 歳）で高く、学童では低い傾向がみられたが、対象がセンター受診者のみのデータであり普遍的とはいえない。

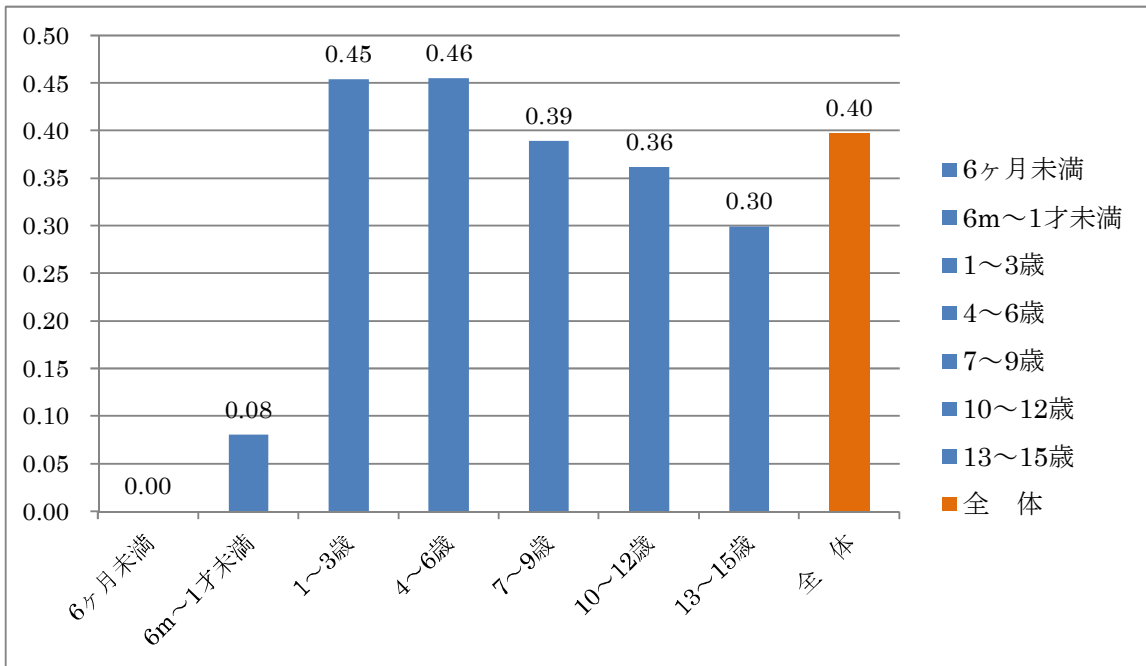
【図表 1】 対象患者

受診患者総数	
1 月 21 日(土)	202
1 月 22 日(日)	400
1 月 28 日(土)	202
1 月 29 日(日)	438
2 月 4 日(土)	226
2 月 5 日(日)	510
総 計	1,978

【図表 2】 検査実施人数と検査結果



【図表 3】 ワクチン接種率（年齢別）



【図表 4】 A型陽性の患者数（ワクチン接種歴及び年齢別）

